

都道府県名	徳 島 県
-------	-------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	高 原 小 学 校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	12
児童数	27	35	31	32	36	34	3	198	

研究の概要

1. 研究主題

たしかな学力の向上をめざした学習指導のあり方  
 —— 教える授業から学習する授業への転換 ——

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

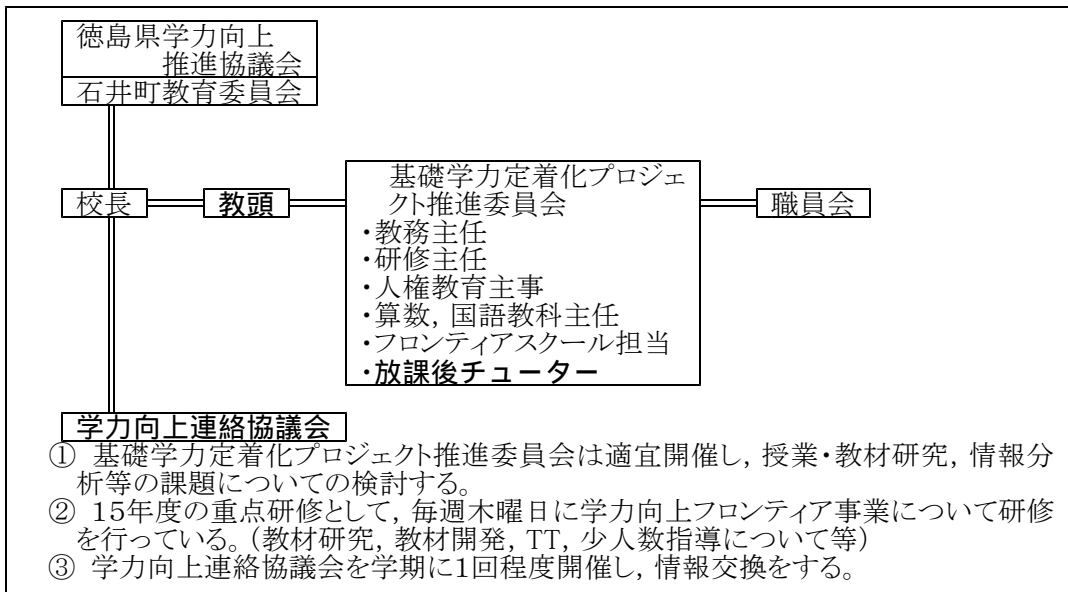
・ 1～6年生・算数，国語  
 国語科，算数科とも児童の理解度や習熟度に個人差が出やすいため。  
 国語科では，TTを実施し，「読む」「書く」の基礎・基本の定着を図る。  
 算数科では，TT，少人数指導など個に応じたきめ細かな指導を実施する。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ          たしかな学力の向上をめざした学習指導のあり方          - 教える授業から学習する授業への転換 -</p> <p>研究の見通し（仮説）          たしかな学力を身につけていくために，育てていかなければならないものは，「自ら学ぶ意欲」であると考え。子どもたちの「自ら学ぶ意欲」を高めるための要素として，A 基礎的体験を豊富にすること B 学習意欲向上への資質を高めること C 学習を支えるスキルを身につけること D 望ましい学習態度を身につけること の4点がある。          A～Dについてアンケート調査を実施。結果を分析し，より具体的な研究方法について考えた。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的体験を豊富にするために，読書活動を中心に，学校や家庭でいろいろなメディアにふれる機会をつくる。（親子読書，読書の日）</li> <li>・指導方法を工夫・改善し，子どもたちが主体的に学習する授業を創造する。（TT，少人数指導，PERT学習）</li> <li>・教材・教具を工夫・開発し，子どもたちの興味や関心を引きつけ，分かる楽しい授業を展開する。（課題別プリント，ワークシート，ヒントカード，ドリル，自作プリント）</li> <li>・子どもたちの学習活動を適切に評価し，その結果を子どもたちに返していくことで一人一人の学習意欲を高めていく。（振り返りカード，評価カード，座席表）</li> <li>・教師と子ども，保護者と子ども，子どもと子どもの「認め合い，支え合い，磨き合う」人的学習環境や子どもたちが学習に集中できるような物的学習環境など。（基本的生活習慣の定着化，「腰骨をたてる」等4つの生活のめあて）</li> <li>・放課後学習チューター制度の導入（毎週火，木，金曜日の放課後に，希望者を集めて，百マス計算，漢字・計算プリントや課題別プリントによる学習，宿題などを行う。）</li> <li>・小，中の連携学校（石井町浦庄小学校，石井町高浦中学校）との連絡を密にして，情報交換し，よりよい研究を進めることができるようにする。</li> </ul>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>たしかな学力の向上をめざした学習指導のあり方</p> <p>- 教える授業から学習する授業への転換 -</p> <p>研究の見通し</p> <p>2年目を迎える。初年度の成果や課題を検討しながら、子どもたちの実態に応じた研究を進めていく。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的体験を豊富にするために、読書活動を中心に、学校や家庭でいろいろなメディアにふれる機会をつくる。(親子読書、読書の日)</li> <li>・指導方法を工夫・改善し、子どもたちが主体的に学習する授業を創造する。(TT, 少人数指導, PERT学習の充実)</li> <li>・教材・教具を工夫・開発し、子どもたちの興味や関心を引きつけ、分かる楽しい授業を展開する。(課題別プリント, ワークシート, ヒントカード, ドリル, 自作プリント)</li> <li>・子どもたちの学習活動を適切に評価し、その結果を子どもたちに返していくことで一人一人の学習意欲を高めていく。(振り返りカード, 評価カード, 座席表)</li> <li>・教師と子ども, 保護者と子ども, 子どもと子どもの「認め合い, 支え合い, 磨き合う」人的学習環境や子どもたちが学習に集中できるような物的学習環境など。(基本的生活習慣の定着化, 「腰骨をたてる」等4つの生活のめあて)</li> <li>・放課後学習チューター制度の導入(毎週火, 木, 金曜日の放課後に, 希望者を集めて, 百マス計算, 漢字・計算プリントや課題別プリントによる学習, 宿題などを行う。)(長期休業中のチューター導入)</li> <li>・小, 中の連携学校(石井町浦庄小学校, 石井町高浦中学校)との連絡を密にして, 情報交換し, よりよい研究を進めることができるようにする。</li> </ul>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・指導方法については、TT や少人数指導を取り入れることにより、子どもたち一人一人の学習状況がよく把握できるようになってきた。
- ・少人数指導のグループの分け方は、習熟度別や課題別、均等割のグループ分けがあり、習熟度別では、基礎・基本の定着を図る「じっくりコース」と発展的な内容に取り組む「チャレンジコース」に分かれたコース別学習を行っている。コース別のプリントを作成し、できるだけ自力解決できるようにヒントカードを用意し、答え合わせは各自が行うという学習スタイルの習慣づけをしてきたので、指導者が一人の場合でも、教室内のコース別学習を行うことができる。
- ・教材・教具の工夫・開発については、プリントを作成する際に、基礎・基本の定着をめざしたものと、発展的な内容を含んだものなど、個に応じた問題を盛

- り込むよう心がけている。
- ・ 学習の流れ（単元に入る前の準備テストや個別指導，TT，小単元や単元のまとめの段階の少人数指導，最後の確認テスト）が定着しつつあるので，子どもたちは一つの課題が終わったときに，教師の指示を待つのではなく，自ら進んで次の課題に取り組むようになってきた。
  - ・ 学力テスト結果による検証は，平成15年9月実施分と平成16年2月実施分を比較して検討する予定。
  - ・ 放課後学習では，自分で課題を選んで学習できる，宿題について分からないことを質問できる，友だちといっしょに学習できる等の理由で子どもたちには好評である。放課後学習のない日にも，授業中分からなかったことについて質問にきたり，宿題をみてほしいと残って学習する子どもでできた。

## 2. 今後の課題

学習内容，指導方法，評価などについて打ち合わせの時間の確保  
 国語科における TT や少人数での効果的な指導方法のあり方  
 プリント学習における子どもの思考を助けるヒントカードの作成  
 子どもたちの学習意欲を高める評価活動のあり方  
 評価を指導に生かしていくことの積み重ね，評価方法の工夫  
 ノート，ワークシート，それぞれの特性を生かした効率的な指導の仕方

### 学力等把握のための学校としての取組

- 学力テストの実施
- ・ 目的  
児童の学習状況の変容を捉えるために，3 回行った。児童の学力の推移を把握し，一人一人の指導に役立てるとともに，指導方法の改善を図る。
  - ・ 実施内容  
全学年の国語，算数
  - ・ 実施時期  
平成14年3月，平成15年度は9月と2月に，平成16年度以降は年2回実施する予定。  
単元前後のテストや小テスト（形成評価）  
単元前に児童一人一人の学力を把握し，一斉指導に入る。必要に応じて少人数指導を取り入れ，また一斉指導を行う。単元終了後には確認のテストをする。学力テストの結果と学期ごとの成績を比較検討し，児童の学習状況の把握に努め，指導方法の改善，教材開発，評価に生かす。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 平成15年11月7日 学力向上フロンティアスクール研究発表会開催
- ・ 平成16年度は高浦中学校が研究発表会を実施する予定である。本校は研究協力校として，全職員参加のもと研究発表会において研究の成果を発表し，参加者とともに研究協議する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	